

子育て支援策の一層の充実を図るため、子育て支援室を課に昇格させる考えであります。また、町民の皆様を担当する業務の内容が分かり易いよう、生涯学習課を社会教育課に名称を変更する考えであり、この2点について、三月十八日開催の奥出雲町教育委員会審議いただくこととしております。

学校教育については、学校や地域の特徴を活かし、ふるさとを愛し、自ら考え主体的に行動できる、心身ともにたくましい人づくりを目標に、学ぶ意欲と学ぶ力の育成に取り組んでまいりました。

今後も、日本でここ奥出雲町でしか体験できない「たたら操業体験学習」や小学五年生全員参加による「吾妻山合同キャンプ」を継続してまいります。

また、両中学校区の「教育を語る会」を支援するなど、幼保小中学校が連携する事業を積極的に推進し、学校間交流促進や地域資源を活用した特色ある教育、教育効果を高める各種支援に努めてまいりたいと考えております。

そのほか、学力向上や生徒指導、特別支援教育、読書活動、ふるまい向上、公民館活動などの充実を図るため、引き続き教育委員会事務局に派遣の指導主事、社会教育主事それぞれ一名を配置することとしています。

学校施設整備については、鋭意、校舎や屋内運動場の耐震改修、大規模改修を進めておりますが、来年度は、仁多中学校武道場の修繕整備のほか、横田小学校給食共同調理場の空調整備などを実施いたします。

そのほか、各地区公民館は地域の生涯学習の拠点として、また、地域活性化の活動拠点としての機能を強化してまいります。

スポーツ振興

ホッケー競技は、小学生から社会人の年齢層まで、全国大会等でも優勝、準優勝を取める全国トップレベルの競技力を誇っており、引き続き、小中学校、横田高校、セリオ島根の競技力維持、向上のために必要な支援を充実させてまいります。

また、伝統と歴史のある町体育協会の陸上・剣道などについても競技力の向上・強化を図るほか、昨年三月に発足した「奥出雲スポーツクラブ」を中心に生涯スポーツの普及・振興にも努めてまいります。

文化振興

これまで、文化協会をはじめとする文化団体の育成支援を図り、積極的に本物の芸術文化に触れる機会の提供に努めてまいりました。これらの取り組みにより、奥出雲神代神楽など新たな文

化の創造も始まってきており、今後も引き続き、一流の音楽団体との交流や優れた日本画の展示会など、芸術鑑賞の機会を提供することとしております。

また、本町の「宝」を掘り起こし、歌い継がれてきた郷土音楽を調査・保存するとともに、CD化を図って一般に提供するなど、文化の薫り高い町を目指していく考えであります。

なお、風土記時代から世界で唯一継承されている「たたら製鉄」は、地域資源として非常に価値が高いものであります。

平成二十二年度から調査事業を進めてきた「たたら製鉄を背景とする文化的景観」については、調査成果をもとに、来年度、中国地方初となる国の重要な文化的景観の選定申請を行うこととしております。このことによつて、さらに本町の製鉄文化の価値が高まるとともに、ふるさと奥出雲の素晴らしさが全国に発信されることを期待しております。

新エネルギー施策と環境対策

今年度から稼働している「佐白温泉 長者の湯」と「玉峰山荘」の木質チップボイラーは、約三分の燃料費削減の効果が確認できたことから、今後は、検証を継続するとともに、他の公共施設、農業施設

等への導入を進めてまいりたいと考えております。また今年度から、森林所有者が自ら間伐材を木の駅（森林組合集積場）に持ち込んでいただくことにより対価を得る、「おろちの深山きこりプロジェクト」をスタートさせました。

これらの間伐材は、森林組合を経由して「佐白温泉 長者の湯」などのボイラー用燃料チップとして活用されており、今後も町内経済の循環にも貢献するものと期待しております。

また、仁多発電所は建設から五十年以上が経過しているため、昨年七月にスタートした固定価格買取制度を活用し、安定的・継続的に運営できるように施設の大規模改修を行うこととし、所要額を新年度予算に計上いたしました。

さらに、県と共同で進めている小水力発電所適地調査の結果を踏まえ、新たな小水力発電所建設の可能性についても、検討を進めていくこととしております。今後も、本町の豊富な森林資源と未利用資源を活用し、エネルギーの地産地消を推進し、持続的・安定的な循環型社会の実現を目指してまいります。

会計検査院から指摘を受けた山林地籍調査事業の補助金返還について

昨年の指摘後、国・県と協議を重ねた結果、補助金の返還額が確定しました。

返還額は、国費、県費を合わせて一億四千九百九十三万三千円であり、財政調整基金を財源に三月末に一括返済することとなります。この決定に併せ、関係者の処分について左記のとおりといたしました。この場を借りて、あらためて衷心より深くお詫び申し上げます。

奥出雲町長 井上 勝博

【処分】

- 町長 減給二〇%
- 副町長 減給一五%
- 職員 減給二五%(一名)
減給一〇%(四名)
口頭注意(一名)

新しいデザインのバス お披露目

国土交通省の補助事業である社会資本整備総合交付金を活用して購入された新車両が奥出雲交通株式会社へ導入されることとなり、その納車式が二月二十日に行われました。今回納車されたバスには、島根デザイン専門学校の校内デザインコンペで最優秀賞に輝いた二年生の梅美由紀さん考案のシャクヤクのデザインが施されています。式では、同じく優秀賞に選ばれた三名の学生と共に記念品が贈られました。勝田副町長は「このバスがこれから住民の足として長く親しまれ、また奥出雲町の魅力を町外へPRするものとなつてほしい」とあいさつをしました。



▲シャクヤクがデザインされたバス

植田恒雄さん (三成)

高齢者叙勲 瑞宝双光章を受章

植田さんは昭和五十九年に横田町立馬木小学校の校長として退職されるまでの三十八年間、小学校教育に専念し、地域教育の発展に貢献されました。子どもたちの正しい食習慣の定着化への取り組みや老朽化した校舎改修への働きかけ、またホッケー競技の底辺拡大等には特に尽力され、これらをはじめとする教育に対する多大な功績により、公務等に長年に渡り従事し成績を挙げた方に贈られる瑞宝章に推挙され、叙勲の栄に浴されました。おめでとございます。



渡邊若菜さん (横田中)

スピーチコンテストで入賞

この度独立行政法人北方領土問題対策協会が主催する、中学生を対象とした「『北方領土に関する』全国スピーチコンテスト」で、横田中学校三年生の渡邊若菜さんが同協会の理事長賞を受賞しました。このコンテストは全国から五千二百人が応募し、今回受賞した協会展長賞は三位に当たる賞です。渡邊さんは去年の夏に内閣府の主催する青少年北方領土現地研修会に参加し、受賞したスピーチはその体験をもとにしたものでした。



渡邊さんは、「入賞して嬉しい。島根県は竹島問題も抱えているので、これからもっと領土問題について勉強したい」と話しました。

奥出雲町消防団

優良消防団として 全国表彰

この度、奥出雲町消防団が全国の優良消防団に選ばれ、東京で開催された第六十五回日本消防協会定例表彰式にて表彰旗の授与がされました。

今回表彰旗が授与される消防団は全国で四十団のみで、県内では唯一の受章となりました。おめでとうございます。



▶表彰旗を持つ加藤弘志本部長 (右)と安部正教団長